

2015年(平成27年)3月14日 土曜日

日立化成が単結晶事業譲渡

オキサイド製品拡充へ

レーザー製品に使われる単結晶製造のオキサイド(北杜市武川町牧原、古川保典社長)は13日、日立化成(東京)からシンチレーター単結晶事業を譲り受けることで同社と合意したと発表した。シンチレーター単結晶は医療や原子力、資源探索など幅広い分野で需要が拡大している素材。事業を譲り受けることにより製品の幅を広げると同時に、新製品開発につなげる狙いがある。

〈渡辺真紗美〉

オキサイドによると、シンチレーター単結晶は、放射線の入射により、蛍光(シンチレーション光)を発する単結晶。PET診断装置ではがん細胞の発見、資源探索ではシエールガスの含有量、位置特定などに使われる基幹材料として注目され、世界の研究機関や企業が開発に力を入れて

単結晶をラインアップすることで、基幹製品群を拡大、深耕できる」と説明。「日立化成の現在の取引先への供給を継続することは、事業展開の早期立ち上げを実現し、製品の幅を広げる基礎になる。シンチレーター単結晶の製

造は、日立化成から譲り受ける技術は、国内外の50件以上の特許に保護された総合的な量産技術という。投資総額は非公表。工場取得などについては未定。

オキサイドは「これまで手掛けてきた光用高機能単結晶に加え、新たにシンチレータ

造、それを使った装置開発を進め、国内外への販売を展開していく」と話している。

オキサイドは、物質材料研究機構(つくば市)が開発した結晶育成技術の実用化を目指して2000年に設立。世界で初めて非線形結晶の量産化に成功した。10年にソニーからDUVレーザーの事業譲渡を受け、新製品の開発に取り組んでいる。